

南海地震に備える

香川県防災局 乃田 俊信

<22>

講演時の疑問・質問集

今回は、私が県内各地を講演した際に受けた質問と応答の一部をご紹介します。

Q…地震に備えて、1階と2階のどちらで生活すべきか？(高齢者から)

A…阪神・淡路大震災では、木造2階建ての家屋においては、1階部分の被害が大きく、主として1階で寝起きしていた高齢者の方の犠牲が大きかったことは事実です。一方、火災が発生した場合は、2階の方が危険性は大きくありません。そこで、高齢者の方々には、普段の生活の便利さも考えて、「耐震対策(耐震補強、家具の転倒防止など)を十分に行い、安心して1階で生活」することを勧めます。

Q…高台の無い市街地などの津波避難は？(坂出市にて)

A…津波対策には、県や市町などが防波堤等を整備して行うハード面の対策と、市町や地域で行う津波避難計画や津波避難訓練、住民自ら行う避難行動があります。前者は時間がかかりますが、それだけで完全という訳ではありません。そこで、津波の危険がある場合は、直ちに安全な所に避難しなければなりません。市街地のように高台等がない場合は、近くに安全な一時避難場所を確保しておくことが必要です。一つの方法として、近くのしっかりしたビルの屋上などを一時避難場所に指定しておくことです。この場合、前もつ

て市町や地域とビルの管理者との間で協定等を結んでおくことが必要となるでしょう。また、ある市では、公園の一角に「やぐら」のような避難場所を作った例もあります。いずれの場合も、住民によく知らせておくとともに、避難訓練をしておくことが大切です。

Q…災害に備えて、高齢者としての心構えは？(高齢者教室にて)

A…一口に高齢者といっても、

① ② ③

① ② ③



今年7月16日に発生した新潟県中越沖地震。柏崎市内では1階部分が崩れ落ちた民家が目立った。同日18日、西嶋正法撮影

③ 避難行動などに際し手助けを必要とする

など、その状態に大きな違いがあり、「心構え」「備え方」も変わってきます。

①の方は、今までの経験等を活かして、地域・家族のために頑張るといって構えます。構えます。構えます。

②の方は、現在の状態を努めて長く維持できるように、体と頭のトレーニングを続けていただきたい。

③の方は、「遠慮せずに、手助けを受け易くする」という考えで、必要な情報を所要の人に知らせておくようにしていただきたい。

04(平成16)年の台風で避難勧告が出た際、「足手まといになるから、この家と運命を共にする」と言って避難しなかつた人がいたそうですが、それは、地域の人たちを困らせるだけです。最も大切なものは「人の命」ですから。

高齢者には、「年齢を経るに従い、今まで以上に地域と密接なかわりが必要」ということを、共通の心構えとして持つておいていただきたいと思えます。

【次号のテーマ】

次号は、今までお話ししてきたことを「防炎クイズ」にしてみました。と思います。